

Allograft inflammatory factor-1 (AIF-1) の臨床応用について

澁谷 雪子

はじめに

Allograft inflammatory factor-1 (AIF-1) とは、詳細な生理機能は不明であるが、心臓移植後の慢性的な拒絶反応時に発現するタンパク質で炎症反応や自己免疫反応においても何らかの役割を果たしている可能性がある。また1型糖尿病 (IDDM、インスリン依存性糖尿病、若年性糖尿病) にも関与していると考えられている。

今回は健常者血清のAIF-1濃度を測定し、健常者血清のAIF-1濃度と性差、年齢の関係、健常者血清AIF濃度とIDDM患者血清AIF濃度を比較し、AIF-1の臨床的意義を検討した。

方法と結果

1. 健常者血清 (健康診断) 114検体のAIF濃度を測定：平均45.9pg/ml
2. 健常者血清58検体のAIF濃度と年齢について相関の有無を検討：相関係数 $r=0.009$ で相関は認められなかった。
3. 健常者血清・男性 (29検体)、健常者血清・女性 (29検体) のAIF濃度を比較し有意差の有無を検討：健常者男性AIF濃度の平均51pg/ml、健常者女性AIF濃度の平均41pg/ml (p 値 $0.3547 > 0.005$) で有意差は認められなかった。
4. IDDM患者血清・男性 (15検体)、IDDM患者血清・女性 (23検体) を比較し有意差の有無を検討：IDDM患者男性の平均75pg/ml、IDDM患者女性の平均66pg/ml (P 値 $0.5837 > 0.005$) で有意差は認められなかった。
5. 健常者血清 (健康診断) 114検体、IDDM患者血清84検体を測定し有意差を検討：健常者血清AIF濃度の平均46pg/ml、IDDM患者血清AIF濃度の平均75pg/ml (P 値 < 0.0001) で有意差が認められた。

*解析ソフト：Stat View

考 察

健常者血清のAIF平均濃度は46pg/mlであり、性差がなく、年齢にも関係がないことが分かったが、健常者血清AIF濃度とIDDM (1型糖尿病) 患者血清AIF濃度には差があり、AIF濃度がIDDMと何らかの関係があると思われる。

今後は、NIDDM (2型糖尿病) 患者血清AIF濃度との有意差についての検討と糖尿病患者血清に関してAIF濃度と糖尿病に関連する検査項目 (HbA_{1c}値、血糖値、インスリン値、コレステロール濃度、中性脂肪濃度、BMI値) との関係の検討、また糖尿病に関係していると思われるレプチンについても検討するつもりである。